

3. 課題別研究プロジェクト報告（6月22日）

②【テーマ】タブレットPCを使用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの小・中学校の英語教育方法論

15:10～17:10 第7室

代 表 : 高橋美由紀（愛知教育大学名誉教授）
共同発表者 : 市川 裕理（豊田工業高等専門学校）
柴田 里実（金城学院大学）
清水万里子（岡崎女子大学）
中川 右也（三重大学）
西尾 由里（名城大学）
森 直樹（星槎大学）
柳 善和（名古屋学院大学）
米村 大輔（鹿児島県立短期大学）

本プロジェクトは、ICTの新たな可能性を外国語（英語）教育に生かし、学習指導要領に示された児童生徒の資質・能力の育成における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る観点から、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善－タブレット端末を活用した英語教育」としての研究である。

発表では、文部科学省が実施した『「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」Ⅰ. アンケート調査編』（2023）を基にして、本プロジェクトで実施した教師へのアンケート調査及び、2022年度に実施した中部地区の各県のデジタル教科書の実情から、①デジタル教科書の導入や活用における課題、②課題を踏まえて主体的・対話的で深い学びの実現に向けたデジタル教科書の効果的な活用についての理論と実践を示す。なお、発表者の担当については、調査結果・分析（市川）（清水）（柴田）、実践事例（高橋）（森）（米村）、理論的な裏付け（中川）（西尾）（柳）が主に担当する。

(1) 教師へのアンケート調査の結果・分析

中部地区の各県のデジタル教科書における活用状況等の調査結果、及び中部地区の教師を対象にして、文部科学省「令和3年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」成果報告書の質問紙項目を本資料から抽出して実施したデジタル教科書の使用についてのアンケート調査結果を提示し、さらに、分析結果からデジタル教科書の導入や活用における利点や課題を述べる。

(2) アンケート結果による「主体的・対話的で深い学び」におけるタブレット端末の活用

(1)の利点や課題を踏まえて、デジタル教科書を導入した授業についての事例研究と実践を裏付ける理論を述べ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善としての活用法を校種別に提案する。

2-1. 授業改善に資する学習者用デジタル教科書の機能

タブレット端末利用の利点として感じていること、効果的に活用できる点について
紙の教科書とデジタル教科書の比較－個別最適な学びや協働的な学びが実現しやすいと捉えている

autonomous learning – 児童生徒の習熟度に応じた学習では、「繰り返し練習」や「動画・映像機能」協働的な学びでは、画面に直接書き込むことや削除することが容易にでき、画面共有もできる。

2-2. デジタル教科書をよく使用できるようになったきっかけや便利な点

アンケート結果と情報収集による面談等からの考察

2-3. 主体的・対話的な学習者用デジタル教科書活用の実践事例

アンケート調査から、学習者用デジタル教科書の使用イメージを広げ、実際の活用につなげる必要があることが認識できた。とりわけ、習熟度に応じた学習でのデジタル教科書の活用については使用有群と使用無群の差が大きかったため、事例紹介を行うことで取組を促すことが可能になるのではないかとと思われる。

(実践事例)

- 小学校の授業で、アニメ視聴によるコミュニケーションの場面理解等
- 音声読み上げ機能による小学校の家庭学習での「音読練習」等
- 中学校の授業で画面にマーカーを引いたり、直接書き込んだりできる等
- 保存機能により、学習履歴を学習者自身で振り返ることができる。
- 画面共有により、グループやクラスでの意見交流が容易にできる等

2-4. タブレット端末の活用ができていない点における今後の活用法

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関しては、「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

アンケート調査では、上記のような観点からの「ポートフォリオ評価」ができるような活用がなされていない。タブレット端末の「書き込んだ画面内容の保存」「保存した画面内容の提出」「過去に保存した画面内容の表示」等の記録を残す機能を活用することによって、自己評価が容易にできると思われる。

(実践事例) – 中学校3年生の授業で、画面の教科書の「自分の考え」の根拠となる部分にマーカーを引く、「友達の意見」を画面に書き込む等

– 発音・音読などを記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能となる。

– 保存機能により、児童生徒が学習した量を把握することができる。

(3) タブレット端末/学習者用デジタル教科書の使用における課題

アンケート調査より、タブレット端末が使用されていない理由とそのサポートについて、以下の点が挙げられる。また、これらの課題について、どういったサポートがあればタブレット端末を活用できるようになるのか等、授業及び家庭での学習者への「学ばせ型」を考察する。

① フォローアップの必要性 – 障害となっているもの

タブレット端末等の使用イメージを広げ、実際の活用につなげる必要がある。

② 研修の必要性 – ICT 研修

習熟度に応じた学習でのデジタル教科書の活用については使用有群と使用無群の差が大きいが、事例紹介を行うこ

とで取組を促すことが可能になるのではないかとと思われる。

③教師の時間確保－教材研究・準備等に時間を費やすことができない現状

(参考文献)

文部科学省(2022)「令和3年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」報告書

文部科学省(2023)「令和4年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」報告書 I. アンケート調査編」https://www.mext.go.jp/content/20230530_mxt_kyokasyo01_000030062_11.pdf

高橋美由紀(2024)「英語授業におけるデジタル教科書活用について」、三重県教育委員会 研修推進課『令和4・5年度 三重県英語教育改善プラン推進事業 英語授業におけるデジタル教科書 活用実践事例集』pp1.-7.